

金剛流舞囃子 養老

山神 豊嶋 幸洋

大鼓 渡部 諭

太鼓 前川 光範
笛 左鴻 泰弘

地謡 中村 洋臣
湯川 稜

宇高 竜成
道一 晃嗣

金剛流能 巴

巴御前

惣明 貞助

兼僧 則久 英志

間 黒人 増田 浩紀

大鼓 河村裕一郎
小鼓 曾和 鼓堂

笛 山村 友子

後見 廣田 幸稔
宇高 永謹 竜成

地謡 向井 弘記
宇高 徳成 今井 龍謹
山田 晃嗣 廣田 泰能

(十二時半頃)

大蔵流狂言 寝音曲

太郎冠者 山本 善之

主人 岡村 宏懸

後見 小斉平真路

観世流舞囃子 野宮

合掌留 六条御所

分林 道治

大鼓 渡部 諭
小鼓 船戸 昭弘

笛 森田 保美

地謡 大江 泰正
深野 貴彦

味方 杉浦 豊彦
林 宗一郎

観世流舞囃子 松虫

友を憑小 男の堂

樹下 千慧

大鼓 河村凛太郎
小鼓 林 大輝

笛 森田 保美

地謡 河村 和貴
松野 浩行

橋本 光史
浦田 保浩 吉浪 壽晃

(二時頃)

観世流能 邯鄲

舞童 大江 真桜
廬生 大江 広祐

大臣 有松 遼一

勅使 岡 充 陸

大鼓 河村凛太郎
小鼓 林 大和

太鼓 加藤 洋輝
笛 左鴻 泰弘

後見 宮本 茂樹
井上 裕久 大江 信行

地謡 河村浩太郎
橋本 忠樹 吉田 篤史 片山 仲吾
田茂井廣道 浦田 保親

間 宿の女主人 島田 洋海

休憩十五分

能《巴》

木曾の山家の僧は都へ上る道中、江州粟津の原にて祠の前で涙を流す一人の里の女に出会う。不審に思う僧に女は行教和尚が宇佐八幡に詣でた時の事を語って答える。女はここに木曾義仲が祀られているので同所の縁で回向してほしいと頼み、自身も或る者の霊であると告げ、草の蔭に消える。(中)

僧が夜もすがら回向をしていると巴御前の霊が女武者の姿で現れ、義仲に女のために落ちのびると命じられた怨みを述べ、深手を負った義仲の事や自身の奮戦の様を語る。更に自害した義仲の許へ戻り、泣く泣く形見の品々を取り、甲冑などを脱ぎ、後ろめたさを残しながら落ちのびる様を見せ、僧に重ねて弔いを頼み、終曲となる。

「戦い」が題材となる修羅物と呼ばれる曲の中で唯一、女性が主人公となる曲である。巴という人物の「強さ」と「愛情」の二面性が垣間見え、それが彼女の生涯を切なげに見せる。

狂言《寝音曲》

たまたま太郎冠者の家の前を通りかかった主人は、太郎冠者の上手な話を耳にします。翌日主人は早速自分の前で話を謡うように命じます。しかし太郎冠者は今後たびたび謡わされてはたまらなくなりました。そこで、まず「酒を飲まなければ謡えない」と嘘をつきます。どうしても話を聞きたい主人は酒を飲ませます。すると今度は「妻の膝枕でなければ声が出ない」というので、今度は自分の膝を貸してやります。太郎冠者は仕方がないので、ししぶい謡いはじめますが、酒が回ってだんだん上機嫌になつてきて、
体を横にした不自然な姿勢からは朗々と謡い、体を起こした姿勢では声が出ないというアンバランスさが笑いを誘います。小品ながら謡や舞もある屈指の人気曲です。

能《邯鄲》

蜀の国の青年・廬生は、人生の悩みを解決しようと、楚の国の羊飛山に住む高僧の教えを受けるため旅に出る。途中、邯鄲の里でわか雨を受け、宿屋へ向かう。宿の女主人から奇特な邯鄲の枕の話を聞かされ、粟の飯が炊けるまでの間その枕で一眠りする。すると勅使がやってくる。廬生に楚の国の王位が譲られたと告げる。思いもよらない知らせに驚く廬生を乗せ、與は宮殿に着く。宮殿や金銀の砂を敷きつめた壮大な庭のすばらしさ、人々の装いの見事さ、栄華の日々を送ること五十年。酒宴で自ら歓喜の舞を舞う廬生「ハッ」と目覚めるとそこはもとの宿、女主人が粟の飯が出来たことを知らせる。茫然と起きあがった廬生は、栄華に満ちた日々も所詮は一炊の夢と悟り、人生の悩みも消え、晴れやかに故郷へ帰って行く。
狭い畳台を広大な宮殿に見立てて舞い、その途中で心と足を踏み外す演出。特異な構成の人氣曲。

附 祝言
終了予定 三時半頃

主催 独立行政法人 日本芸術文化振興会(国立能楽堂)

能楽若手研究会 京都公演
第31回 京都若手能
令和4年 6月25日(土) 午前11時開演(午前10時30分開場)
京都観世会館 075-771-6114
http://www.kyoto-kanze.jp

4/16(土) 一般 前売 3,200円 / 一般 当日 3,500円 / 学生 1,700円

表紙写真「邯鄲」大江又三郎(金の星渡辺写真場 撮影)



地下鉄東西線 東山駅から 1 番出口より徒歩約5分
JR京都駅から ●地下鉄丸太線「国際会館ゆき」乗車「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線「六地藏ゆき」(浜大津ゆき)に乗り換え、「東山駅」下車
●京都駅前バス(のりばD1)より市バス100系統、A1より5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
四条河原町から バスのりばEより市バス31・46・201・203系統「東山仁王門」下車
京阪三条駅から 地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車
※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、館内では必ず「マスク着用」をお願いします。
※体調が優れない場合は、ご来館前に医療機関にご相談ください。
※見所内での写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。